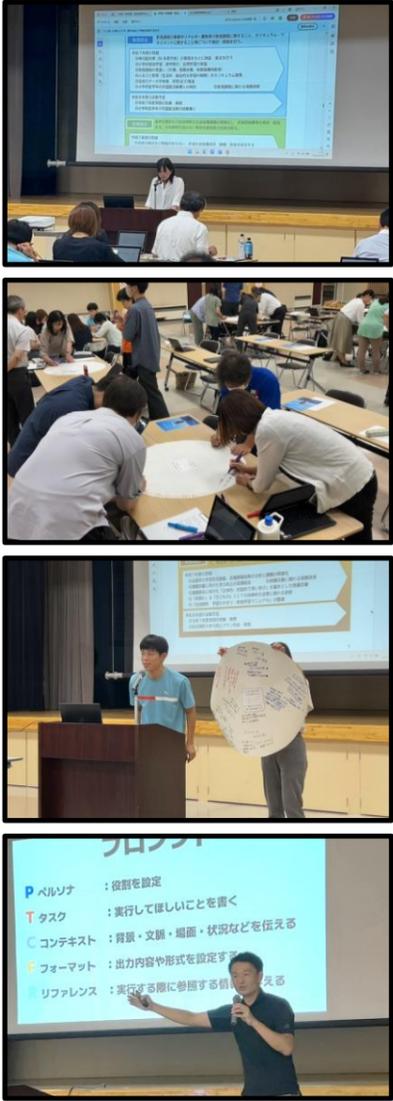


佐呂間町教育委員会

教職員が仕事のやりがいを感じるときってどんな時？

小中一貫教育の取組

研修の様子



子ども同士が支え合っているのを見たとき

自分の言葉が子どもの心に響いたとき

子どもや保護者からの一言（ありがたうなど）

子どもが毎日笑顔で登校し笑顔で下校したとき

子どもの「分かった」という表情や声を聞いたとき

小中一貫教育全体会開催

働きやすさ × 働きがい

こどもをまんやかに、学校・地域・社会のウェルビーイングの向上を！

教師のウェルビーイング、学校・地域・社会のウェルビーイング

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。

日本社会に根差したウェルビーイングの向上



図：第4期教育振興基本計画リーフレットより

こうした中、夏季休業日が始まった7月28日（月）、推進委員会の事務局が主催する全体会が、町民センターで約50名の参加のもとに行われました。

推進委員会は、事務局と3つの部会（教務部会、指導部会、研修部会）で構成されており、小中学校の管理職や教職員が、9年間で目指す子ども像の具現化に向け、「つなぐ」をテーマに、月に一回程度集まり、様々なことを協議しています。

佐呂間町では、小中一貫教育を推進するために、教職員で組織した「小中一貫教育推進委員会（以下、推進委員会）」を設置しています。

続いて、3つの部会の部長である教頭先生から、これまでの

次に、推進委員会の会長である、佐呂間小学校の池田校長先生から、小中一貫教育を進めていく上で「5つのつなぐ」①目標、②学び、③子どもの心、④教職員、⑤学校と家庭地域意識が重要であることが示されました。

はじめに、鈴木教育長から、小中一貫教育に取り組むことは、目的ではなく手段であること。目的は、小学校と中学校の学び等をよりよく連携することで、子どもの成長につなげること。様々な取組によって、子どもの変容が現れることを期待したいとの挨拶がありました。

教職員が中心となって進める「小中一貫教育」！

ワークショップでは、どんな時に仕事のやりがいを感じるのかについて、理想の職場について、小中混合のグループに分かれ円形の模造紙に話をしながら書き込みました。

今回の研修では、子どものウェルビーイングを高めるためには、教職員のウェルビーイングを高めることも重要ということ。働きがいに関わるワークショップ、「働きやすさ」に関わる講演という2本の柱で行われました。

佐呂間町では、小中一貫教育に取り組むことを通じて、子ども、教職員、地域の人々のウェルビーイングの向上を目指しています（図）。

「働きやすさ」と「働きがい」を両立することで教職員のウェルビーイングの向上につながることを学べた研修会でした。

働きがいは、子どもの成長！

の取組状況に関する報告があり、その後、研修が行われました。

文章生成	文字起こし	notta
ChatGPT	記号・図形生成	Napkin
Microsoft 365 Copilot	スライド生成	Gamma
Gemini	音楽生成	ud.io
Claude	動画生成	vrew

図：学校業務で活用できる生成AI等（講師資料より）

続いて、「AIで働き方を変える」という演題で、元中学校教員の高松慶多氏による講演が行われました。高松さんは、様々なAIアプリを活用することで、業務の効率化を図ることができると、業務の効率化を図ることを通じて、具体的な説明されました。

働きやすさに、AI活用を！